

九州の手話



全国手話通訳問題研究会九州ブロック

目次

| | |
|-------|----|
| ① 福岡 | 2 |
| ② 長崎 | 8 |
| ③ 熊本 | 13 |
| ④ 大分 | 20 |
| ⑤ 宮崎 | 25 |
| ⑥ 鹿児島 | 30 |
| ⑦ 沖縄 | 38 |
| むすび | 43 |


FUKUOKA

■福 岡

博多帯を示している。



■久留米

久留米餅の柄→を示している。



■小 倉

- ①福岡ろう学校開設の時に、小倉からアゴのしゃくれた人が入学してきたので、その人を指して表現したもの。
- ②乃木大將が小倉にいた時があり、その乃木大將のアゴひげを示したもの。



右手でアゴを2回たく

■大 川

家具で有名な地域であり、家具をそのまま表している。



■ 筑 豊

豊臣秀吉のカブトの形を表わしている。



■ 博 多

博多は、博多駅で代表され、「駅」の手話からきたもの。



■ 直 方

鞍手郡の中心に位置していた時の手話で（現在は直方市として独立している）「鞍」という字から馬に股がっている手話表現。



右手を2回おろす

FUKUOKA

■ 中 洲

中洲は博多のネオン街であり、「中」と「ネオン」で表す。



■ 町

町に出かけていく時にオシャレをして行くことから「目立つ」を意味している。



■ バ ス

左手がバスの器を意味しており、それに人が乗ることから。



2回の動作

■竹

竹を刀で割るしぐさ。



■ハンサム

「均整」がとれていると「良い」で表現している。



■わごと

二枚舌を表している。



右手人さし指・中指を交互に動かす。

■～なら

よく使われる手話であるが意味不明。



FUKUOKA

■ うっかり

「失敗」の意味を含んだ手話表現。



■ やっぱり

「固い」「確信がある」の意味。



■ まさか

「違う」という意味からきた表現。



■ 思っきり

表現そのまま。



■うどん

うどんの麺をツルツルと飲み込む様子。



■秋

秋の代表的果物は「柿」, その柿を食べるしぐさで表す。



NAGASAKI

■長崎

岬状の地形を有しているところから「長崎」と称している。手話もまさしく岬状を表し西の果ての意味を含んでいる。



■大村

明治30年（1897）歩兵第46連隊が設置以降陸海軍基地となった。その訓練で爆音が絶えず、この表現になった。



■諫早

産業の一つとして酒造製造がある。その意を表している。歴史を探ると大ナマズの伝説があるがナマズのヒゲからきているとも考えられる。



■佐世保

軍港によって繁栄した海軍の記章

■島原

子守りみそが有名
みそという手話でもある。



■浦上

浦上には長崎大学附属病院がある。ナースキャップ



■丸山

市内に散在する色町を丸山の一角所に整理をしたのは寛永19（1642）年である。丸山の遊女のかんざし。



■壱岐

数の壱。



■対馬

対州馬は日本馬の元祖とみられ、蒙古馬、朝鮮馬の系統で小型で高さは人間の肩ぐらいである。この馬から対馬という手話ができた。



NAGASAKI

■ 宮 日

寛永11年(1634)に始まった祭りで重陽の節句, 9月9日に行われていたために, この手話になっている。明治の陽暦採用から10月に行われている(毛槍)。



■ 街

長崎の人たちが, 街へ行くときよく言う。現在の浜町を指しているのであるが, 歴史的には旧市街になる。品高い人たちの集まっていたところという意味。



■ タマネギ

ビードロ(ガラス細工)のポツペンの形とタマネギが似ていることから。



■ 意味

カードに単語の意味を書いて覚えたところからと考えられる。カードの金具の輪。



■ なかなか

的に向けてタマをうっても外れる。なかなか的に当たらない。



■ もったいない

お金を出そうか、いややめようか、でも……やっぱりもったいないという意味。



■ ピーナツ

ピーナツを振り豆が入っているかどうか確かめるところから、この表現になっている。



■ 省 く

意味不明。



NAGASAKI

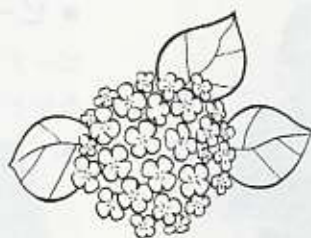
■ 偶 然

考えもつかなかったという意味。



■ たいしたことはない

意味不明。



■ ぶ た

上唇がそれかえっている様子が、ぶたの口に似ているところから。



■熊本

熊本城を築き上げた加藤
清正公の家紋である蛇の
目の紋を表す。



■水前寺(公園)

水前寺公園は、地下からの湧
き水で出来た池を中心に作ら
れた公園。水が湧き出し、水
面に水輪みなわを作る様子を表わし
ている。



■阿蘇

噴火の様子。



■人吉

「人吉」の漢字から作られた
もの。「人」と「良い」の手話
が合わさっている。



KUMAMOTO

■宇 土

宇土半島の形が、人間の横顔の鼻に当たる部分であることから。



■八 代

八を数字の手話(8)で表わす。



■川 尻

鋳物で有名な町。鋳物を並べた店が道の両側にズラリと並んでいたのが鎌などの鋳物の形と街並の様子を合わせたもの。



■健 軍

昔、軍の飛行機練習場だった地域。複葉機の翼の形と、軍隊の行進の様子を合わせてある。



からしま
■ 辛島町

熊本で初めて信号機が設置された所。当時の信号機がよく表現されている。



■ がむしゃら

(無鉄砲の意味も含んでいる。) 右手が前方へ向かっている。これは「力む」意味の手話。左手は後方へ向くが、これは「後をふり向かない」「雑念を捨てる」意味の手話でもある。



■ そらみたことか

「言う(事)」「あるか?」の手話が合わさったもの。



■ クラス(学級)

左手は生徒、右手は先生。「受け持つ」「教える」の意味から。



KUMAMOTO

■ 納 得

「もう言う事はありません」と口を引っ込めるだけでなく、「出す顔なし」と顔まで引っ込める。



■ しまった!

「約束は済んだ。証拠はある、もう取り消しはきかない」という意味。(烙印は消せないという意味も含む)



■ 隠密行動

「だまって」「隠れて」「動き回る」



■ こじき

左手、右手共に、「汚ない」の手話。それに物乞いをするしぐさを合わせたもの。



■ あほ、まぬけ、ばか

相手がだらしなくなったり、シャキッとしていなかったり、きちんとやらなかったりという事で、胸をきりっと張って歩かないし、手も生き生きしていなく頭も弱いという意味。



■ まさか!

手話の形は「見る」+「出来ない」であるが、意味は、「出来ないように見える——のに、出来た。まさか!」となる。



■ 何回も、次々に、よく見る、よくやる

1, 2, 3, 4, 5...と数を増やしていく事の表現。



■ 算 数

5つ玉のソロバンから。ろう者はかけ算の九九はリズム的にむずかしい。手の指を使って計算するのでその意味も込められている。



KUMAMOTO

■ 1ペンだけ(経験)ある

「1回終わり」→1回経験したことになる。



あまいた
4指、親指を「ア」の型にして
あこにアける。口の横

つらい
右いと同じ

ざつと
左手首の少し上の位置に
右拳をつける(甲上向き)

はたし
左手の甲に右中指の先
をアて、右手掌をたたく

からかう
両手人指を「ア」の型
回転させる

かんこ牛

■ 1ペンもない

「1回ない」→経験なし。
「ない」の手話はただ当たり
まえに「ない」と表現するの
でなく、かなり特徴がある。



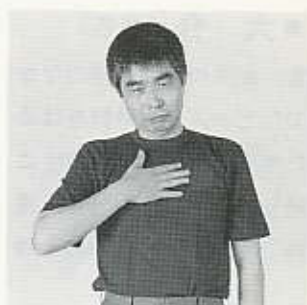
■ 無作法

頭、つまり精神が汚ないとい
うことから。



■よく考えて自覚しろ

「おまえ、頭でよく考えて理解しろ！」の意。



■互いに嫌い合っている
いやなものは指ではじく、お互いに嫌い合っている場合、どちらもはじき合う。



■冷や汗もの(ヒヤッとした、危なかったなあ)

ひやっとした時の気持ちを表している。特に、顔、口が大切であるが、体の表情はもっと大切である。

(みなさんは、ひやっとした時、自分の手がどこに行くか、おわかりですか?)



■大分(地名)

昔、九州のろう学校のなかでただ一人、腕時計をはめた生徒が大分ろう学校に通っていました。当時、腕時計といえば、とっても珍



らしく、みんなの垂涎の的となり、その生徒の特徴をとって生まれたものである。今では「九州の東に位置する所」と解釈されている。

■別府(地名)

温泉マークを表したもので、市街のあちこちに湯けむりが立ちのぼる。世界的な湯の街、「別府」にふさわしい表現でもある。



■津久見(地名)

ここは、みかんとセメントの産地。高校野球でも全国に知られている当地は「津久見みかん」としても有名である。その「みかん」の皮を剥く動作が地名となったもの。



■ 佐伯(地名)…サイキ

大分県南部の中心都市。戦前から、海軍の重要基地として発展してきたが、現在は臨海工業都市に転換。佐伯港は重要港湾に指定され、工業的に成長を遂げている。表現は、旧海軍基地の水兵さんのセーラー服を形どって生まれたものである。



■ 臼杵(地名)

ズバリ、臼杵の臼である。



■ アイデア 奇抜な発想 (ひらめき)

右示指をこめかみに当て、次に上へピンと上げる。その時口をパッとあける。

考えに考え抜いた末、妙案が「パッ」とひらめいたという意味。



■ おもしろくない いやな

右手掌を胸に当て、反転しながら外へはねる。顔を少し横に向ける。前にしてかした失敗が胸につかえて、なにかこう、すっきりしないで、いやーな感じがする。はやく振り払いたい気持ちから生まれたもの。



■ いいかげん, 手抜き

「簡単」に加えて両手をパッパッと前に二回振る。

複雑な仕事などを面倒がり、「簡単」なことは「捨てる」ことからきたもの。



■ そんなことはない

顔の横に右手掌を前にして立て、後へ反転しながらはねる。「あ」、
「ない」の繰り返し。



■ あとで

(待つ)にも使われる。口びるを「ウ」の形にし、両手掌を上にして腹の前で上下に小刻みに動かす。
口びるを「ウ」の形にするのはゆっくりの「ゆ」。



■ じゃま……邪魔

右拇指と示指を額の前から下へスット降ろす。(目の前の障害物) 向うにすばらしい景色かなにかがあるのに、目の前に障害物がある、見ることができないことからきたもの。



■ 知らんぷり

右示指をこめかみにあて、パツ、外して拇指・示指で〇をつくる。顔を少し横にそらす。
私には関係ないことだ。という意味から生まれた。



■ わざと

右示指をこめかみにあて、次に左手甲を右手掌で前に二回払う。目を上目づかいにする。意図的に或いは故意的にという意味。語源は定かではないが、目を上目づかいにするところが、いかにもわざとらしい。



(写真では顔を斜め上に向けているが、実際には顔は正面を向いたまま、目だけを上目づかいにする)

■ とんでもない でたらめ

これは、子供（とは限らない）が非常に危険な遊びかになかをしているとき、母親が「マアッ危ないッ、とんでもないことをしてッ」と叫んだことからきたもの。



■ まいった、お手上げ

両手掌を顔の前で打ち合わせそのままにあげる。
昔、夏の夕方、打ち水をした庭先に縁台を出し、浴衣がけで涼をとりながら将棋を指していた二人。「王手」とこられて「マイッタア!!」と両手を打ち合わせて頭の上にかざしたのがはじまり。



■ ほっとけよ 勝手にしろ

あれやこれやと指図しても、相手がどうしても乗り気でなく、いやな顔をしている。仕方がないので「じゃあ、お前の方法で好きなようにしろ」ということから使われはじめた。



■ みぐるしい みっともない

あの人、上衣のボタンが一つとれているうえ、ずらして止めている。ズボンも片膝破けていて、おまけにクツ下は色ちがい。どこから見ても変な恰好。みぐるしいわ」と顔をしかめながらもひたいに当てた手の下からソツとのぞいているしぐさからきたもの。



■ 分ってるのに

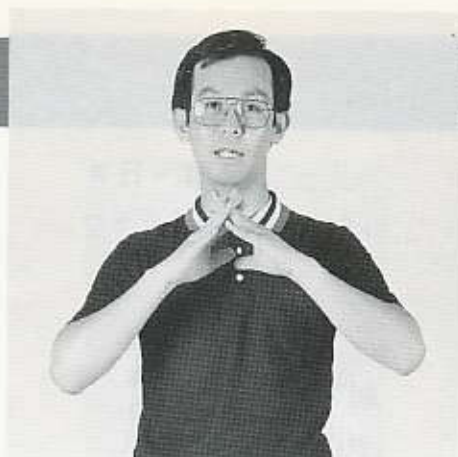
「わかる」+「ほんと」+「あなた」
「以前から、あなたのおっしゃつていること、何べんも聞いているからよく分っていますヨ。ええ分っていますとも、ホントに分っていますってば。」



■ ずるい、こすい 意味不明。



■ 宮 崎



■ 延 岡



■ 日 向



■ 西 都

妻という地名からきている。



MIYAZAKI

■ 佐士原

分かれ道がある。



■ 住吉

スイカの産地。



■ 高千穂

天の岩戸をあけるしぐさ。天孫降臨の地。



■ 高鍋





■日 南
ウチワをあおぐ仕ぐさ。

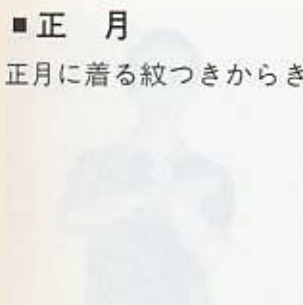


■都 城
陸上自衛隊の駐屯地。

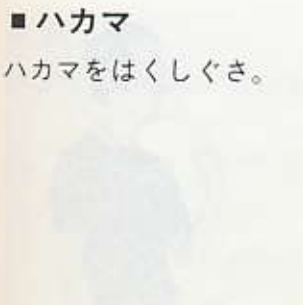
くし ま
■串 間



■正 月
正月に着る紋つきからきた。



■ハカマ
ハカマをはくしぐさ。



MIYAZAKI

■黄色

胸元で指文字のノを書くよう
なしぐさ、月(月の色…黄色)
がなまって変化したものと考えられる。



■うそ

舌を出す代わりに手で表現。



■馬鹿, 気がい

頭がパーという意味。



■ザマーミロ

不明。



■ ええかっこしい,
二枚舌

にぎりこぶしを上方にひねってあげる, 舌は口からペロペロ出す。
意味不明。



■ く せ
不明。



■ 勉強

口話教育から口をさし示す。



KAGOSHIMA

■ 鹿児島

鹿の角三本。



■ 桜島

桜島の形。



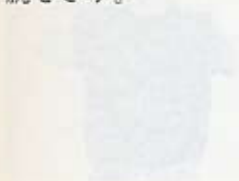
■ 変 (おかしい)

意味不明。



■ 大隅半島

鹿児島県の地図の形で左側の腕をさす。



■ 指宿
親指。



■ 奄美大島

ハブがかむ様子。



■ 非常に気持ちが悪い
意味不明。



KAGOSHIMA

■ 数の100

両指を10本まげて開く動作。

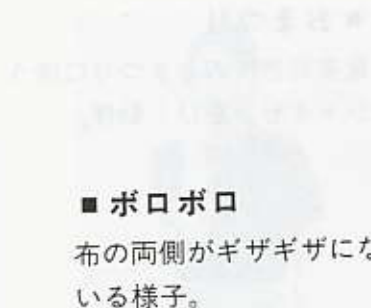


■ のんき

意味不明。



■ 非常識であつかましい
(ふつうでない) 意味不明。



■ ポロポロ

布の両側がギザギザになっている様子。



■ 長 崎

長崎県より来たろうあ者の特徴を表していると思われる。



KAGOSHIMA

■ バチあたり

神様に対し非常識なことをした。



■ おまつり

奄美地方でのおまつりに使うシャミセンをひく動作。



■ どうして

意味不明。



■ こない

意味不明。



■熊 本

意味不明。



■ていねいに

鼻柱に白い粉をつける様子、
ていねいに化粧している。



■平気，どうもない，痛く
もない，かゆくもない
意味不明。



KAGOSHIMA

■ 火曜日

意味不明。



■ お母さん

お歯黒，昔結婚すると歯を黒く染めた。



■ 西

西郷隆盛の顔のほほがふくよかであり，その名前の最初の「西」を示す。



■ とっても上手

意味不明。



■ 薩摩半島

鹿児島県の地図の形で右側の腕をさす。



■ もうちょっとなのに
意味不明。



OKINAWA

■ 沖 縄



■ 遊 び

どろをまるめてあそんだこと。



■ 那 覇

沖縄の首都の位置+覇者（えらい人）からイメージ化。



■ 浦 添

昔はつりの名所であった事から、つりの表現+(添)の形取った表現。



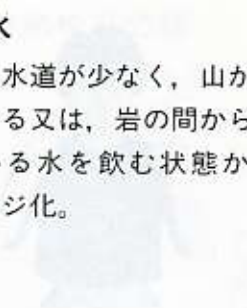
■名 護

名所轟（とどろき）の滝をイメージ化。



■水

昔、水道が少なく、山から流れてる又は、岩の間から流れている水を飲む状態からイメージ化。



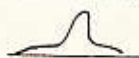
■嘉手納

意味不明。



■伊江島

伊江島タッチューの山が有名で、又昔の感覚で伊→イタリアとイメージされ、伊→イタリア→靴を連想して、靴の表現+島となった。又は、小さな船のエンジンをかけるしくさから。



←伊江島タッチュー（左手）
右手——エンジンをかける。

OKINAWA

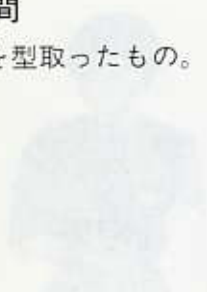
■ テレビ

画像と映像が同時に表現された。



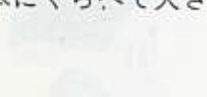
■ 間

門を型取ったもの。



■ 社会

本+記号(⊕東西南北の記号)をだぶらせた。又は、地図帳をひらく状態(地図帳は普通の本にくらべて大きい)。



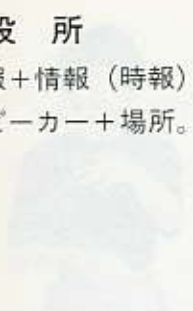
■ 早い

競う状態。



■ 役 所

公報+情報（時報）の連想で
スピーカー+場所。



■ ひめゆりの塔

ひめゆり部隊の女学生の服装
から、肩から水筒と救急（救
護）袋をクロスさせた状態と
自殺（腹切り）をだぶらせた。



■ 昭和

意味不明。



OKINAWA

■米 満

漁業の盛んな所でサカナを表現。



む す び

九州には、各県に全国手話通訳問題研究会の支部があり、各支部で地域に根ざした通訳・研究活動に取り組んでいます。

1985（昭和60）年に第1回九州支部代表者会議を開催し、九州ブロック結成について論議を重ね、又、全九州ろうあ連盟（現九州聴覚障害者団体連合会）の指導を仰ぎながら1988（昭和63）年6月19日にブロック結成に至りました。（1993年結成5周年になります）

結成に至るまで年何回かの会議をもちその中で1986年に、九州各支部で研究統一テーマを設定し、同じテーマで研究調査活動を行なうことに決定。これが九州（地方）の手話の調査研究活動の始まりでした。

ここに抜粋した単語は決してその地域の人全員が表現しているとは言いきれないかもしれません。しかし、今でも地域のろうあ者が表現している手話であるものばかりです。人名を表わす手話が、その人の住んでいる町の地名になったり、その手話単語が成り立ってきた契機なり、語源があります。地域により諸説があり、中にはこじつけめいた説もあったり、それはいずれも捨て難いものばかりです。

私たち九州ブロックでは、各地域で表現されている手話、語源を探りながら、手話を学ぶことが聴覚障害者の生活や歴史や文化を知っていく手がかりとなりました。

手話は直感の形象であり、聴覚障害者集団の知恵と共感の中でつくられてきた「ことば」であることを学びとることができました。

又、この調査・研究活動を通して、九州各県のろうあ協会の暖かい励ましと協力を得てきました。

最後に「九州はひとつ」を合言葉に各支部が組織的にこの調査・研究活動を通し仲間作りができたという事です。

この本には載せられなかった手話がたくさんあります。これらの手話を今後も調査していきたいと思います。

この本を手にとりていただいた「あなた」あなたと共に地域に根ざす手話の研究調査してみませんか。

全国手話通訳問題研究会九州ブロック

| 支部名 | 支部長名 | 連絡先 | TEL |
|-----|-----------|-----|-----|
| 福岡 | 角 光 邦 子 | | |
| 佐賀 | 於 保 茂 樹 | | |
| 長崎 | 西 川 研 | | |
| 熊本 | 梶 原 初 子 | | |
| 大分 | 奥 野 百 合 雄 | | |
| 宮崎 | 満 平 一 夫 | | |
| 鹿児島 | 石 原 健 吾 | | |
| 沖縄 | 金 城 美 保 恵 | | |

スタッフ

写真撮影/豆塚 猛

モデル/杉浦みどり(福岡) 山崎 栄子(長崎)
 松永 朗(熊本) 中浜 明(大分)
 金丸 憲史(宮崎) 古庄小夜子(鹿児島)
 宮城美保恵(沖縄)

—九州の手話—

定価800円

1988年8月20日 初版発行

1993年7月5日 第2刷

発行者 橋 本 博 行

発行所 全国手話通訳問題研究会九州ブロック

(事務局 北九州市小倉南区沼緑町三丁目
 5-13 橋本博行方
 TEL 093-473-3488)

印刷所/昭和堂印刷

無断転載を禁ずる